



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

人権教育主任研修会

令和6年5月20日（月）実施

【講義】「災害から一人ひとりのいのちと暮らしを守るためにできることから始めよう」

講師：認定NPO法人レスキューストックヤード常務理事 浦野 愛 氏



令和6年能登半島地震で被災した石川県穴水町を中心に被災後の生活について考える

令和6年1月1日 16時10分
最大震度6強
死者20名、家屋被害4,034棟



避難
実際は身を守る行動で精一杯

地震発生から5か月が経過…
今もなお **避難所**での生活が続いている

復興に向けて…

自宅再建
仮設住宅 → 災害公営住宅



被災者は、言いたいことも言えない日々が続く…
避難所で生活する被災者の人権を守るために、**物理的・心理的の両面での支えが必要**

物理的な改善

心理的なケア

	課題	改善
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 水が流れない 不衛生な状態になり、感染症のリスクが高まる 	<ul style="list-style-type: none"> 便袋や凝固剤を使用 ※ 防災学習等でぜひ体験を！ トイレの使い方についての講習会を各部屋の代表者に実施後各部屋で伝達
寝床	<ul style="list-style-type: none"> 限られた物資（簡易ベッド等） 衛生面の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 簡易ベッドは、優先順位を決めて使用 土足厳禁とする ※ 寝床は顔と床が近い
食事	<ul style="list-style-type: none"> 栄養が偏る アレルギー除去食の不足 物流ストップ 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー除去食の配付 ※ 保健所は確保していても配付先が分からない状況もある 炊き出し交流等
福祉避難スペース	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者（※）が多く、介護・介助が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者のスペース確保 ※ 目が届きやすく、医師等の訪問時につなぎやすい 住宅マップの作成 ※ 誰がどこに居るか、また身体状況の把握もする

（※）要配慮者とは、「高齢者、障害者、乳幼児等の防災施策において特に配慮を要する方」（内閣府のホームページより）

【ボランティア活動(例)によるコミュニケーション】

- ◎ 足湯ボランティア
- ◎ 個別訪問
- ◎ まごころ表札プロジェクト
- ◎ 子どもの居場所づくり

・話しやすい環境づくりが重要
・生活課題の把握(虫の目で見ると)

子どもにも役割をもたせ、実感させる

整える・つなぐ

心理的なつながりによる効果

- ◎ 衛生環境の改善・維持向上
- ◎ 相互理解 → 差別・偏見が減少
- ◎ 活力の向上 → やる気、充実感
⇒ 避難所生活から次のステップへ

聴く・気付く

【被災者の声】（つぶやきから読みとく）

子ども：生活のメリハリがなくなっている
家族にも思いを分かってもらえない不安
高齢者：老々介護の現状、配偶者の認知症
外国人：コミュニケーション不足、偏見や差別意識
女性：女性用品が欲しいと言にくい

ストレス、不安、孤独、PTSD

- 物理的な改善は、**個人の尊厳を守る**ことにつながる
- 避難者が運営に参加できる環境を整えること(つながりと主体性)が、**自立への一歩**

- 被災者の思いを聴き、**困り感に寄り添う**
- 中長期の避難生活を**支えるために必要な**は、「**気付く力**」「**整える力**」「**聴く力**」「**つなぐ力**」のある伴走者

災害から一人一人の命と暮らしを守るためには、**物理的・心理的に支えていく**ことが、**被災者の人権を守る**ことにつながり、災害関連死の発生を防ぐことにもつながる。
→ 教員一人一人が、「**今できることは何か**」について、**未来を担う子どもたちに伝え、自分事として考えさせることが重要!!**



【防災学習・防災活動(取組例)】

- [地域×中学生×要配慮者] → 避難行動訓練・安否確認と困りごとの把握
- [地域×外国人] → 炊き出し交流会（外国人との交流）
- ※ ボランティア活動について、今できることを子どもたちに伝えておくことも重要

【受講者の感想】
・災害時、自分のことで精一杯になり、普段なら思いやれることが思いやれなかったり、他者に厳しくなったりもする。また、「全ての人の人権を守る環境づくり」について発信していきたい。
・コミュニケーションを取ることでお互いを知り、協力していくことで自治性が生まれる。人を支えるのは「人と人とのかわり」だということは、災害時においても忘れてはいけない原点だと思った。
・「防災」ももちろん大切だが、被災後の人々の尊厳を守っていくために四つの力（気付く力、整える力、聴く力、つなぐ力）が大切であることをしっかりと伝えていきたい。「その時必要なこと」をしっかりと見極めているように、日頃から練習・想定・想像させることが必要だと思った。

「資料室・教科書センター」の紹介

☆ 資料室とは・・・



教職員の自主的な調査・研究に役立てていくことを目的としています。授業づくり、学級づくり、学習評価に関する書籍等を所蔵しています。ぜひ、ご活用ください。

書名	著者名	発行所
「縦と横」で考える カリキュラム・デザイン カリキュラム・マネジメント 実践編	田村 学	文溪堂
【図解】授業づくりの設計図	澤井 陽介	東洋館出版社
読解力を鍛える古典の「読み」の授業 徒然草・枕草子・平家物語・源氏物語を読み拓く	阿部 昇	明治図書
主体的に学習に取り組む態度－その育成と学習評価－	田中 保樹 三藤 敏樹 高木 展郎	東洋館出版社
個別最適な学びと協働的な学び	奈須 正裕	東洋館出版社
かわりの中で育つ通常学級『自立活動』の発想による指導	土居 裕士	学事出版
通常学級の発達障害児の「学び」を、どう保障するか 学校・家庭・福祉のトライアングル・プロジェクト	田中 裕一	小学館
やさしく学ぶ教職課程 特別支援教育	是永 かな子 尾高 進	学文社
不登校の理解と支援のためのハンドブック 多様な学びの場を保障するために	伊藤 美奈子	ミネルヴァ書房
やさしくナビゲート！不登校への標準対応 どこの学校でもできる上手な不登校対応	小澤 美代子 田邊 昭雄	ほんの森出版
特別の教科 道徳 指導と評価支援システム	安井 政樹	東洋館出版社
授業づくりが楽しくて仕方なくなる 森岡健太の道徳教材研究ノート	森岡 健太	明治図書
部落差別解消への展望 人権意識調査結果から人権啓発の課題がみえた	神原 文子	解放出版社
教員のための研究のすすめ方ガイドブック 「研究って何？」から学会発表・論文執筆・学位取得まで	瀧澤 聡 酒井 均 柘植 雅義	遠見書房
教員・学生のためのはじめての教育論文の書き方 研究の着想から論文発表まで	石井 俊行	電気書院

☆ 教科書センターとは・・・

各社の小・中・高等学校検定用教科書を保存しています。ご覧になってみませんか。



資料室・教科書センターの場所・開室日・開室時間
【場 所】 高知市教育研究所
 教職員研修班（アスパルこうち3階）
【開 室 日】 月～金（土日祝日は閉室）
【開室時間】 9：00～17：00